LA BRIQUE

SAPPORO Akarenga Terrace



# *L’ Ensemble*

*une vie, un voyage*

---

調和

ある命、ある旅

KAWAJIRI SHUN × SAPPORO VIEWTIFUL DINING

*L’ Ensemble*

*une vie, un voyage*

**Prologue**

**Départ - 旅立ち -**

襖がレストランと外界とを隔て、そこから翔びたつ折り鶴は日本文化の象徴として、内なる空間から外の世界 -
すなわちフランス料理の世界へと誘う。憧れや羨望を伴い、彼我が挑み、屈し、旅し、語り
それでも果てることなく人々を魅了し続ける「唯一無二の世界」への旅が始まる。



2021

無常

油彩・パネル　237.5 × 192.0

《無常》は、日常生活の些細な出来事や現代社会の状況から受けた印象を出発点としている。
内面に抑圧された感情や思考、あるいは秘められた願望が、外の世界へ飛び立とうとする折り鶴の姿と重なった。
「内から外へ」という力の流れの中に、この国にしか存在し得ない感覚や、生きた証を託している。＜舜＞

LA BRIQUE

SAPPORO Akarenga Terrace

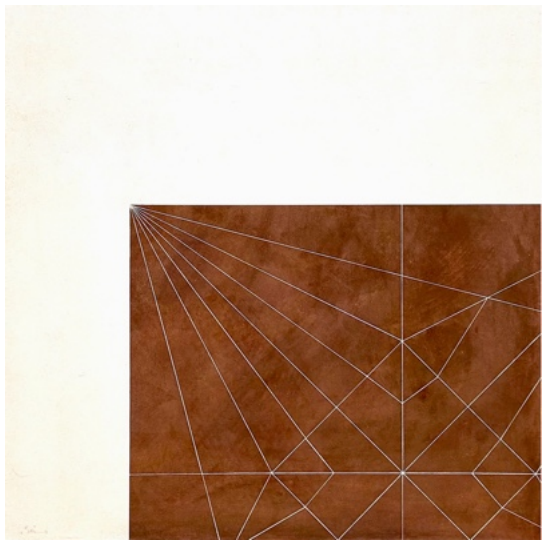
*L’ Ensemble*

*une vie, un voyage*

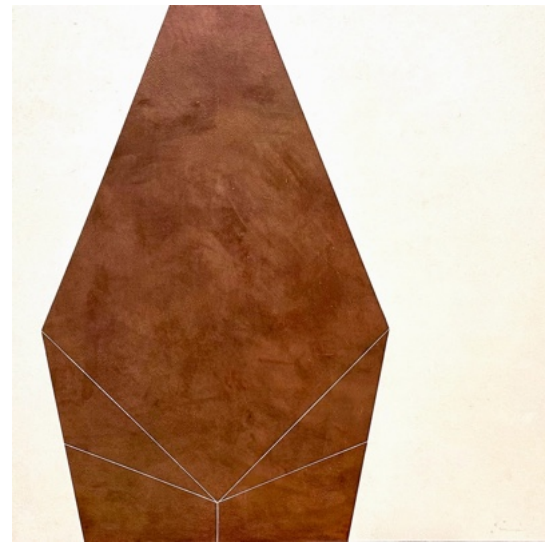
**Première**

**Préparation - 前触れ -**

メインダイニング東側を飾るこれらの作品は、空間に満ちる「静」の美を視覚化する。
赤れんが旧道庁舎を臨むこの場所で、意味を問わずとも、作品と場の間に何らかの符合が生まれる。
この静かな符合が、彼我の旅の扉の鍵となった。







2023

origami - crane -

油彩・パネル　91.0 × 91.0

《origami》は、「人生」という大きな主題からいったん離れ、
折り紙そのものの美しさ、自分が美しいと感じる要素のみを抽出して構成した作品である。＜舜＞

LA BRIQUE

SAPPORO Akarenga Terrace

# *L’ Ensemble*

*une vie, un voyage*

## Deuxième
## Décision - 選択・決断 -

遥か異郷で称えられしもの。揺るぎなき誇り、あるいは深き孤独。
背を追うには遠く、尾を踏むことさえ叶わぬと、我らは息を呑む。
その姿は夏に咲く花か、風を受ける樹か、あるいはこの地に生まれし、きみ自身か。



2023
鶴 - 導線 -
油彩・キャンバス　30.0 × 90.0

赤れんが旧道庁舎を経由し、彼我は新たな選択を迫られる。
切磋琢磨するもの、傷つき絶望するもの。鼓舞するもの。羨むもの。
どのような選択をしても、正誤はなくどこかに辿り着く。



2024
鶴 - 選択 -
油彩・キャンバス　100.0 × 100.0

幾何学的な構造と有機的な動きとの融合をテーマとしている。
これらの作品では、個が集まり、全体の秩序が生まれるという構造を意識し、
その秩序の中で作品の構成や内容を考えている。＜舜＞

LA BRIQUE
SAPPORO Akarenga Terrace

*L’ Ensemble*

*une vie, un voyage*

**Troisième**
**Création - 構成と創作 -**

素材の構造を見つめ、意味をほどき、時間と熱で再構築された一篇の詩がある。
それを「料理」と呼ぶ。
ある命、ある旅に終止符をうち、あらたな文化を開く。



2023
鶴 - 強調 -
油彩・キャンバス　40.0 × 40.0



2023
鶴 - 日の丸 -
油彩・キャンバス　40.0 × 40.0



2023
鶴 - 統一 -
油彩・キャンバス　40.0 × 40.0

これらの作品はマスキングテープで壁に貼られた折り紙の様子を描いたものである。
これは、イタリアのアーティストであるマウリツィオ・カテランの「Comedian」（バナナを壁に貼った作品）に触発されたものである。
自身では技巧を尽くした作品をつくりたいという思いが生まれたことがきっかけである。＜舜＞

LA BRIQUE
SAPPORO Akarenga Terrace

**Quatrième**

**La spirale du temps - 時の螺旋 -**

文化は、未来への礎となる。
果てなき螺旋のなかで少しずつ
なだらかに時を編み、歴史を模る一部となる。



2024

鶴 - 新規 -

油彩・パネル　91.0 × 72.7

芸術とは、自らの内的世界を具現化できる喜びに起因する行為であると、あらためて実感している。
＜舜＞

*L’ Ensemble*

*une vie, un voyage*

## L’ artiste

# KAWAJIRI SHUN

札幌市生まれ。写実に徹した油彩画を制作。
作品は主に、日本に古くから伝わる文化の一つである
“折り紙” をモチーフとして、その象徴性や人生を作品の主題としている。
折り紙の持つ緻密なデザインや独特の風合いを捉え、
改めて平面に描写することで、この国に生まれた証や生き方の表現に繋がると思い筆を執った。

2018
北海道おといねっぷ美術工芸高等学校 卒業生展
ARTIST IN RESIDENCE（音威子府公民館）

2019
第 11 回道展 U21 北海道知事賞　第 94 回道展新人賞

2020
- 層 - 清武昌 / 川尻舜（カフェ北部館ギャラリー／札幌）

2021
第 95 回道展佳作賞

2022
もいわ山山頂レストラン THE JEWELS KODOMOKOTEN

2023
北海道で 1 番小さな村 音威子府村展（札幌駅前地下歩行空間）
mima-no-me Vol.9 # みまのめ（北海道立三岸好太郎美術館）など

LA BRIQUE
SAPPORO Akarenga Terrace

LA BRIQUE

SAPPORO Akarenga Terrace

SAPPORO VIEWTIFUL DINING

THE JEWELS RESTAURANT

Nouvelle Busse Okurayama

LA BRIQUE SAPPORO Akarenga Terrace

THE GARDEN SAPPORO HOKKAIDO GRILLE